

平成 27 年度事業報告

はじめに

国の社会福祉法人改革の動きをはじめとする各種の法制度の見直しや、経営面では法人の財務状況が厳しさを増す中、平成 27 年度は新たな重症心身障害児者施設の 28 年 6 月の円滑な開所に向けて整備推進を重点課題として諸課題に取り組んだ。

また、横浜療育医療センターにおいては、昭和 63 年の開設以来老朽化が進行する施設設備の大規模改修事業を計画し基本設計、実施設計作業を行うとともに、訪問看護ステーション「えーる」を新たに立ち上げ、障害児者の在宅生活支援のサービスを充実させる一歩を踏み出した。

地域療育センターあおばにおいては、地域療育の拠点として増加する診療ニーズに積極的な対応を図った。障害者支援施設「たちほどがや」では、より効率的な経営を目指す一方、利用者ニーズに応えるため様々な工夫を行うとともに、新たな通所施設の開設に向け用地確保等の取り組みを進めた。

また保育室ひかりは、27 年度施行の「こども子育て支援新制度」の下での「小規模保育事業」に認可移行し、より質の高い保育サービスへの転換を目指した。

このように各施設及び各事業における一層のサービスの向上、業務改善の推進、経営基盤の強化などにおいて法人を挙げて取り組みを進めたところであるが、法人に与えられた障害医療・福祉を中心とした使命を十二分に果たしていくべく、法人全体の連携・協力体制のもと、今後とも各施設が主体となって新たな事業展開にも果敢に挑戦し努力を続けていく覚悟である。

I 法人本部業務

1 事務局

理事会及び評議員会の開催

(1) 理事会の開催（7回/年）

平成 27 年 4 月 1 日、平成 27 年 5 月 19 日、平成 27 年 9 月 8 日、平成 27 年 12 月 8 日、平成 28 年 1 月 25 日、平成 28 年 1 月 28 日、平成 28 年 3 月 22 日、

(2) 評議員会の開催（2回/年）

平成 27 年 5 月 19 日、平成 28 年 3 月 22 日、

(3) 監事監査の実施

平成 27 年 5 月 11 日

2 経理部

平成 27 年度は、前年同様に会計数値の精度を高めるとともに、法人全体の経営健全化に寄与し、財務基盤の安定と将来の資金需要に備えることを目標に活動を展開した。

(1) 新社会福祉法人会計基準を適用した会計処理の精度向上を図った。

前年までの新会計基準での運用による会計処理の習熟度向上により、迅速かつ正確な経

理数値の把握に努めた。

- (2) 施設ごとの正確な経理状況の把握と施設間の業務連携を支援し、法人全体の健全化に寄与した。

担当者教育による業務の仕組みづくりや定型化を図り、施設ごとの経理状況を把握し、業務連携を支援するとともに法人全体として経営の健全化を図った。新施設に関しては、新施設開設準備室の発生費用を個別に把握した。

- (3) 各施設の将来計画に基づく資金需要を把握し対応策を作成した。

新施設の建築工事が終了し、資金需要時期も明確になり自己資金の調達計画を作成した。新施設の開設に伴い不足すると思われる運転資金に対して銀行借入の道筋をつけた。今後は、横浜療育医療センターの改修計画に対応した資金調達方法を検討していく。

3 人事部

- (1) 職員確保の取組みについて

平成27年度は看護師、支援員を中心に、たちほどがや、横浜療育医療センター、新施設要員も含め採用を進めてきた。平成27年度中の採用内定者数は看護師60名、生活支援員52名でその他薬剤師、放射線技師、事務員等が27名であった。これにより、たちほどがやの欠員が平成28年度当初に解消でき、新施設の必要人員については、看護師はほぼ予定数を確保、支援員については若干の不足が生じたが、平成28年度引き続き採用活動を進めることとしている。

- (2) 給与制度と一体となる人事考課制度については、試行準備期間2年目として取組み、平成26年度に引き続き考課者研修を4回に分けて実施、並行してトライアル考課を行い実運用での検証も行いながら進めてきた。平成28年1月から経営層で最終確認を行い、28年度本運用に向けて説明会を全職員に行い新人事考課制度を開始することとなった。

- (3) 起案申請、承認システムの構築

事業計画に上げていたが、港南開設に伴う業務増大に伴うデータ量に対応するため、承認システムを導入し各施設間及び関係する管理者間での申請・承認がネットワークを使用して行えるシステム構築をした。これにより旧ワークフローシステムの容量オーバーによるデータ消失の懸念は回避されることとなった。

4 新施設開設準備室

新重症心身障害児者施設は平成26年12月に着工し、工期15か月を経て平成28年2月末を以て、工事完了に至った。施設名称を「横浜医療福祉センター港南（仮称）」とし、開設準備室においては、工事進捗に関する定例会をはじめ、建築・設備の仕様の検討、また、初度備品の調達、業務委託に関する選定、職員採用、運営準備委員会、利用者受入準備など事業開始に向けた準備を行った。

- (1) 工事進捗及び仕様検討について

①工事定例会議：41回実施（毎週火曜開催、通算55回）

②分科会：定例会後に実施。施工図に関する確認及びサイン計画、居室プラン（モデルル

ームによる確認)、リハビリ機器打合せ、ネットワーク工事(備品)の仕様など

(2) 初度備品の調達に関わる取組

横浜市から補助金を受けることから、最適な備品を選定し、また公正かつ適切に入札業者を選定するため、「機種選定委員会」及び「業者選定委員会」を設置した。

①機種選定委員会(医療機器、リハビリ機器、厨房機器、家電製品、事務什器等)

平成27年8月11日・18日・25日・28日、11月24日

②業者選定委員会(「横浜市民間児童福祉施設建設等整備に係る契約指導要綱」に基づき、適正な業者及び件数を選定)

平成27年9月3日・4日、11月24日

③入札日

平成27年10月9日・23日・11月13日、平成28年1月15日、2月2日、2月12日

(3) 業務委託に関する選定

給食業務委託をはじめ、外部検査委託、物品管理(SPD)、建物設備管理など15項目について業者選定委員会を実施し、入札及びプロポーザル方式等で決定した。

①業者選定委員会:平成27年12月18日、平成28年2月22日

②入札等

ア.平成28年1月29日(給食委託、プロポーザル方式)

イ.平成28年3月4日、3月15日

(4) 職員採用

①学校訪問:平成28年4月 神奈川県内及び都内(採用実績のある学校)の福祉系専門学校に学校訪問(12校)を実施し、生活支援員募集要項及びパンフレットを配布した。

②就職説明会(法人本部人事部)

ア.生活支援員:計3回実施(見学対応など)

イ.看護師:適職フェア及び大手紹介会社に対する説明会を計5回実施(見学対応など)

③採用状況

平成28年6月開設に向けて、看護師47名、生活支援員33名、医師等の医療従事者15名の採用計画に対し、3月末現在で9割超の採用が得られた。

(5) 研修計画の策定及び実施

新卒者や中途採用者の採用にあたり、法人研修(7日間)では専門職として気づきに繋がるようチームワークやリーダーシップなどのコミュニケーションスキルの向上をねらいとした研修計画を実施した。また、電子カルテシステムの導入に際し、コアスタッフ向けのトレーニングを3月に実施した。

より実践的な研修の機会として横浜療育医療センターをはじめ県内の重心施設・事業者における2週間の研修を策定した。

(6) 事業プランの策定

新施設の基本的な事業プランの策定にあたり、準備委員会（5 部会）を設置し、課題を整理するとともに、部署間を横断的に協議できるよう、また平成 28 年 7 月から大規模改修に入る横浜療育医療センターと連携を図るため「横浜医療福祉センター港南等推進調整会議」を定期的に実施した。

①診療部会（計 8 回実施）

外来診療、診療時間、入院ベッドの運用、医師・薬剤・検査・栄養等の業務について検討

②居住支援部会（計 9 回実施）

入所（長期・短期）、日中活動、日課、分教室の役割分担、職員体制や勤務時間等の検討

③在宅支援部会（計 6 回実施）

外来部門、入院及び短期入所部門、医療福祉相談室等の体制について検討

④情報システム部会

電子カルテシステムの機種選定及び入札を行い、決定後は運用について医師を中心に部門システムの詳細検討

⑤管理部会

機種選定及び業者選定に関すること、管理規程、組織図（機構図）の検討
また、開所式分科会にて、式典や内覧会等について検討

(7) 利用者受入準備

①啓蒙活動

平成 27 年 5 月の横浜市広報にて新施設の申込み案内がなされた。準備室では、入所案内パンフレットを作成し、地域活動ホーム等へ直接訪問（平成 28 年 6 月から 8 月まで）するなど地域関係機関との連携を図るとともに、重心親の会などに出席した。

②入所調整会議

横浜市が設置した「入所調整会議」に、委員として法人から医師（管理者）、看護部・生活支援部責任者が出席し、選考・決定した。（平成 27 年 12 月）

③家庭訪問

「入所調整会議」で決定した利用者の家庭等の訪問を平成 28 年 3 月から開始し、援助計画などアセスメントを行った。

(8) 開設手続

工事完了後、登記及び定款の変更を速やかに実施した。また、横浜市関係部局との調整（事前相談、電話相談等）を重ね、病院開設許可申請及び病院開設届、事業所認可申請等の準備を行った。

(9) 開所式・内覧会の準備

実施に向けて日程調整及び内容を協議した。

①開所式 平成 28 年 5 月 12 日 (木)

横浜市及び市会、関係機関等 200 名規模の参加を予定。

②内覧会 平成 28 年 5 月 14 日 (土)

広報やマスコミを通じて、地域及び当事者そのご家族、事業所等に広く周知して実施を予定。

Ⅱ 横浜療育医療センター運営事業

1 外来・診療事業

(1) 人員体制 医師 常勤 12 名、外来担当非常勤 5 名

看護師 8.3 名（課長 1 名、非常勤 9 名）

※生活介護、病児保育室、訪問看護ステーションも兼務

(2) 外来・診療状況 (前年比)

外 来		入 所（長期・短期） 入 院							
診療 日数	患者 総数	医療棟（A棟）		医療棟（B棟）		医療棟（C棟）		合 計	
		平均/日	占床率	平均/日	占床率	平均/日	占床率	平均/日	占床率
242	25,799	30.7	102.0	30.7	101.9	44.9	99.4	106.2	100.8
(-1)	(1,288)	(0.1)	(0)	(0.2)	(0.2)	(1.2)	(2.4)	(1.4)	(1.1)

平均/日は（%） 占床率は（床）

(3) 外来診療の拡充

患者総数は 5.2%増加した。重症心身障害児者以上に発達障害児や脳性麻痺児の利用が増えたこと、また、天候の影響が少なかったことが要因と言える。

(4) 入所入院病床の増床

占床率が 1.4 床増加した。入院病床の空床を短期入所ベッドへ活用できる体制を確立し、柔軟なベットコントロールを行なった。看護要員の充実により C 棟の短期入所を 1 床増加させることで在宅支援に貢献でき、同時に病床稼働率が向上した。

(5) 重症化・高齢化への医療的対応の強化

摂食・経管栄養等を整備し機能保持と栄養管理の検討を実施した。機能低下への対応や終末期医療に関し、数名について事前意思確認を行った。

(6) 業務の効率化

オーダーリングシステムは全稼動から 3 年が経過し、さらに薬品マスターデータの整理や臨床検査項目の見直しなど機能拡張を実施した。

2 療養介護事業

(1) 人員体制 看護師 49 名（課長 2 名、常勤 47 名）

生活支援員 58.6 名（課長 3 名、常勤 55 名、非常勤 3 名）

(2) 生活

①「タクシー券」の利用は、今年度も継続して利用することができ、新たな介護タクシー事業所も加わり、希望する時に利用できるようになった。

②日中活動では月間スケジュールに基づいて、利用者一人ひとりに合わせた形でのプログラム展開を行う事が出来た。感染症による棟間交流禁止になった事が数回ありその際は棟内だけのグループ編成に変更し、日中活動を行う等、臨機応変に対応ができた。

③C 棟では、平成 27 年 6 月より「ぶらっと外出」と称し、同じ目的をもった同士が日常の中で出かけられる機会を増やしていく目的で開始している。外出先は「オーロラモール」「ら

らぼーと」「カラオケ」「ドライブ」などである。合計33回行い、延62名の方が参加する事が出来ている。

④ボランティアについては、管弦楽器による演奏やゴスペル、歌、チアリーディング、理美容、生活支援、日中活動の手伝い、生け花や花壇の清掃、読み聞かせ等様々な分野の方々に来ていただいた。また、ほのぼの祭には、多くのボランティアにより、利用者が棟外へ出ることができた。

*介護タクシー、公用車等による外出活動実績

棟	外出活動実績		日中活動	ボランティア
A棟	15件	29名	延参加人数 2,586名	延数144人 回数470回
B棟	15件	29名		
C棟	13件	26名		

(2) 健康管理

①健康状況の変化について

- ・A棟での風邪流行により1週間交流禁止になる。
- ・C棟職員アデノウィルス感染症発生により2週間の交流禁止になる。
- ・C棟利用者ヒトメタニューモウイルス感染により1週間の交流禁止になる。
- ・オムツでは「TENA」という種類を導入し、交換回数の減、利用者の不快軽減ができた。
- ・インシデントは、チューブの抜去（自己抜去を含む）、浣腸を2回してしまう、浣腸のストッパーが肛門内に入って抜けてしまう等があった。

②健康状態

- ・超重心、準超重心共に、昨年度に比べ、ほとんど変化のないスコアになっている。
平成27年度 超重心24名 準超重心33名 重心28名
- ・胃ろう食について
経鼻経管栄養が長期化し胃ろう造設を希望していたケースに対し、胃ろう食の実施者は計20名となった。その中には一日2回（昼食・夕食）胃ろう食を実施できているケースもある。

(3) その他

- ・スタッフがほぼ充足している状況での業務遂行が行われている。また、看護助手の業務改善や、ハード面での変更を行うことでスタッフのスムーズな業務の流れをつくる事が可能になった。
- ・職員研修は、ナーシングサポートをはじめ、外部研修への職員派遣を行う事が出来た。各重症心身障害関係の学会や集会などにも看護師・生活支援員が参加することができている。
- ・実習、研修生の受け入れは、例年通り行っている。保育士の専門学校や各大学の社会福祉系の学生、看護学校の学生、歯科衛生士の学生、横浜市大の医学部学生など多岐にわたって受け入れることができた。
- ・センター内発表を例年通り行い、7題の発表をすることができた。

3 生活介護事業

(1) 人員体制 生活支援員 9.6 名（課長 1 名、常勤 7 名、非常勤 2 名）

(2) 利用実績（前年比）

開設 日数	登録 数	新規	平均/ 日	超重 症者	準超 重症	医ケ ア有	延通所 者数	延欠 席数	述送 迎数
243	44.5	4	17.5	13	13	30	4,276	751	6,964
(2)	(1.5)	(1)	(1.6)	(0)	(1)	(0)	(373)	(-58)	(752)

- ・利用実績は、増加しており、欠席者も減少している。レスパイト入所の増加に伴い利用者確保を図るため、1日定員を増やしている成果が見られている。
- ・年度途中で死亡による1名退籍、12月より新規の利用者1名受け入れた。昨年度から引き続き在宅困難となっている1名は短期入所を数箇所繋いで長期入所待ちの状態となっているため、生活介護利用は当センター入所中のみとなった。
- ・5、9月の大型連休中1日ずつ開設し、利用者家族の負担軽減と実績数増加に繋がった。
- ・送迎車に装備したスタットレスタイヤを活用し、1月の雪の日は1時間遅れで開設した。今年度は天候による休園が0日となった。

(3) 健康管理、治療・医療処置の状況（前年比）

IPV	薬液吸入	導尿	浣腸	点滴
381(-67)	455(-45)	179(24)	347(59)	6(-4)

- ・家族や関係機関との情報共有と異常の早期発見・対応に努め、通所中の点滴治療が減り、重症化することなく経過した。
- ・個別に必要性を評価しながら見直しを行いIPV、薬液吸入、などの件数は減少したが、介護力の低下に対して、清潔ケアや排便処置等は必要な利用者が増えている。

(4) 活動支援

延べ活動数は4820(+392)件と増加した。個別支援計画に基づいた活動を軸として、様々な活動を行った。またキャップ回収やせっけん販売を役割として継続し、意欲的に取り組んでいる。年間通して地域交流活動に取り組み、小学校の生徒や教員、地域の方々と、相互に親密な良い関係を作ることができた。今年度、これまで(10年間)の地域交流活動の実践報告をまとめたことにより課題が整理され、新たな展開に期待できる。

(5) 在宅支援

計画相談が次々に始まり、本人家族を含めた関係者会議への職員出席が増えている。外部の相談事業所であっても、必ず出席できるように努めた。計画相談が入ったことにより関係機関との連携・協力が担当者を中心にスムーズに運ぶようになった。

4 リハビリテーション課

(1) 人員体制 常勤 16 名 非常勤 5 名（担当部長 1 名、課長 1 名、主任 1 名含む）

理学療法士 (PT) 常勤 9 名、非常勤 3 名

作業療法士 (OT) 常勤 4 名

言語聴覚士 (ST) 常勤 3 名、非常勤 3 名

臨床心理士 常勤 1 名、音楽療法士 非常勤 1 名

(2) 実績

① P O S 心理個別療法実績 (前年比)

なお、単位数は請求ベース

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法 臨床心理※	合計	前年比
外 来	実患者数	663 (46)	378 (26)	320 (-52)	1,361 (151)	112%
	延患者数	9,601 (524)	4,191 (-137)	3,715 (658)	17,507 (1,045)	106%
	新患者数	116 (42)	116 (82)	118 (52)	350 (176)	201%
	単位数	24,712 (1,136)	11,083 (-341)	9,898 (2,111)	45,693 (2,906)	107%
入 所 ・ 入 院	実患者数	216 (1)	40 (-10)	21 (-10)	277 (-19)	94%
	延患者数	2,234 (-318)	293 (-88)	104 (-130)	2,477 (-372)	87%
	新患者数	20 (1)	3 (-9)	4 (4)	27 (6)	129%
	単位数	4,808 (-856)	850 (-255)	259 (-372)	5,917 (-1,483)	80%
計	実患者数	879 (47)	418 (43)	341 (-42)	1,638 (132)	109%
	延患者数	11,681 (-370)	4,484 (-223)	3,819 (528)	19,984 (675)	103%
	新患者数	136 (43)	119 (83)	122 (56)	377 (182)	193%
	単位数	29,520 (280)	11,933 (-596)	10,157 (1,743)	51,610 (1,423)	103%
前年比較(単位数)		101%	95%	112%		

※の内、臨床心理：相談 125件(119件) 各種検査 170件(157件)

②音楽療法実績

外来 129 件 (前年度+3 件) 入所 223 件 (前年度-11 件)

日中活動との合同セッション 36 回 (前年度+1 回)

(3) 補装具関係

827 件 (前年度+139 件)。毎週木曜日と月 1 回火曜日の計月 5 回実施した。主に患者担当 PT が同席しコーディネートした。

(4) ペアレントトレーニング (2 年目)

2 グループ×1 クール=延べ 2 グループ 計 11 名 (前年度-6 名) 実施した。

(5) 関係学会等発表

日本重症心身障害学会、日本小児理学療法学会、全国重症心身障害児施設職員研修会

(6) 法人他施設支援

たちほどがやからの相談 (車椅子、訓練プログラム) には 1 回対応した。あおばへ研修を兼ねて臨床心理士を週 1 日派遣した。(欠員応援で 4 月から 12 月までは週 2 日の派遣となった。) まいは一との職員研修のための介護講習に協力した。

(7) 地域支援等

地域の障害者施設 5 施設 (かがやき、幹、朋、トムトムの家、町田の丘特別支援学校)

に定期的に出張した。(前年度は-1 施設) また、市内施設に対して出張介護技術研修を 4 件実施した。(前年度は-4 件)

(8) 学生等実習

PT は 2 校 2 名の養成校学生の臨床実習を実施した。OT、ST は実施していない。

(9) 職員研修

全国重症心身障害児施設職員研修会 (11 月・大阪) 2 名

5 歯科

(1) 人員体制 歯科衛生士 2 名 (常勤 2 名)

(2) 歯科外来実績 (前年比) (件)

新患者数	延べ患者数	平均/日	全身麻酔症例
47 名 (-4)	2,271 名 (-53)	14.0 名 (-0.9)	9 症例 (2)

(3) 入所ブラッシング指導 (前年比) (件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
A棟	16	5	13	9			12	13	12	7			87 (-11)
B棟	2	4	11	9	9	13			4	11	6	9	78 (-18)
C棟		21		17				8	6	15			67 (-20)

(4) 拡充した業務

・神奈川歯科大学附属歯科衛生士短期大学からの実習生の受入、3 日間 2 回計 6 名 (+2 名)

6 薬剤科

(1) 人員体制 薬剤師 3 名 (常勤 2 名、非常勤 1 名)

(2) 院内処方実績 (前年比) (件)

	診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
外 来	小児科	755 (34)	1,545 (86)	18,522 (219)
	耳鼻咽喉科	234 (0)	393 (-63)	4,907 (29)
	内科	13 (-9)	27 (-14)	590 (-328)
	皮膚科	49 (11)	75 (12)	237 (-132)
	歯科	30 (-24)	52 (-42)	176 (-143)
入 院	A棟	2490 (125)	8,673 (520)	57,206 (3,430)
	B棟	1926 (20)	6,431 (275)	42,438 (1,817)
	C棟	3155 (-170)	9,852 (726)	60,910 (6,411)
調剤 合計		8,652 (-8)	27,048 (1,500)	184,658 (11,567)

(3) 注射処方実績 (前年比) (件)

	病棟	処方箋枚数	処方件数	薬品件数
入院	A棟	477 (10)	2,674 (635)	3,954 (645)
	B棟	272 (-83)	1,830 (323)	2,836 (380)
	C棟	829 (-573)	5,494 (-1,048)	9,483 (-1,845)
注射 合計		1,578 (-648)	9,998 (-90)	16,273 (-820)

(4) 実務内容

- ・散薬監査システムにより、精度の高い調剤業務が可能となり、調剤事故・過誤等への安全対策としては非常に有効であり、質の高い調剤を提供できた。
- ・ジェネリック医薬品への切り替えを行い、9剤（前年比-3剤）を後発品へ変更した。

7 検査科

(1) 人員体制 臨床検査技師2名（常勤1名、非常勤1名）

(2) 検査実績

センター内検査 (前年比) (件)

	生化学	血中濃度	血ガス	尿一般	脳波	心電図
外来	938 (76)	507 (7)	97 (43)	432 (-17)	208 (33)	135 (26)
入所	2,164 (-1)	725 (100)	841 (73)	520 (-48)	13 (-3)	105 (12)
計	3,102 (75)	1,232 (107)	938 (116)	952 (-65)	221 (30)	240 (38)

外注検査 (前年比) (件)

	生化学	特殊	細菌
外来	665 (19)	782 (46)	241 (15)
入所	1,034 (13)	946 (45)	754 (-50)
計	1,699 (32)	1,728 (91)	995 (-35)

- ・3月に電解質分析装置（15年使用した）を更新した。

8 放射線科

(1) 人員体制 放射線技師2名（常勤2名）

(2) 撮影実績 (前年比)

	CT	一般 撮影室	一般 ポータブル	DR検査	超音波検査
27年件数(前年比)	281 (59)	496 (87)	1,170 (76)	366 (70)	431 (-18)
	歯科撮影室口内法	歯科ポータロ内法	歯科パントモ	フィルムコピー	合計
27年件数(前年比)	42 (-8)	90 (4)	6 (3)	0 (0)	2,882 (273)

9 医療福祉相談室

(1) 人員体制 相談員 4.8名（課長1名、常勤3名、非常勤1名）

(2) 短期入所・相談業務

短期入所の月別・棟別利用状況（件）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計 (前年比)
受 入	A棟(4)	21	17	21	18	18	14	20	20	18	18	19	17	221 (-4)
	B棟(4)	19	17	19	17	20	15	20	20	18	17	21	21	224 (25)
	C棟(7)	39	37	42	44	46	37	44	38	34	35	38	43	477 (38)
	合計	79	71	82	79	84	66	84	78	70	70	78	81	922 (59)
申し込み		94	99	101	103	131	102	114	128	114	84	87	118	1,274 (133)
断り		15	28	19	18	47	36	30	50	44	14	9	37	347 (69)

※日中一時支援 216件（35件）

- ・今年度は、C棟が5月より45床として短期入所で1床増やし15床で運用したことに加えて、空床の入院ベッドを334日間利用し昨年度より6.9%増加した。また、呼吸器利用者の受入れも1名から2名以上に可能になり入所調整に幅を持つことができた。

(3) 市二次相談支援機関業務等

区 分		延べ件数（前年比）	合計（前年比）
障害 種別	重症心身障害	512 (394)	953 (400)
	知的障害	207 (140)	
	身体障害	160 (-61)	
	発達障害	73 (-23)	
	その他	1 (-1)	
相談 内訳	自施設の利用相談等	514 (412)	1,534 (479)
	生活上の相談	362 (52)	
	関係機関との連絡調整等	278 (39)	
	家族・人間関係	247 (-48)	
	健康・医療相談	79 (4)	
	社会資源活用支援	54 (20)	

地域向け事業

委託先など	講座名	件数（前年比）
障害者支援センター	健康相談	4 (0)
障害者支援センター	歯科巡回相談	1 (1)
地域施設支援（横療独自）	出前介護講習会	8 (4)
自立支援協議会（勉強会）	出前看護講習会	1 (1)

- ・今年度は、二次相談担当者以外でも対応した業務実績をとった。そのため実人数610人、延件数953件と昨年度より大幅に増えた。成人383件に対して児童が592件と6割強を占めており児童の相談件数は昨年同様に多い。障害種別では、重心に次いで発達障害が

昨年度の知的障害より多い相談件数となった。また、40件以上の外部会議（自立支援協議会・個別支援会議など）に出席した。

- ・「指定特定相談事業（計画相談）」は、専任1名で開始した、7件新たに受け入れ15件の通所利用者を実施している。長期利用者は増やすことができず3件のままだった。

《研修インストラクター（依頼）》

- ・神奈川県障害者相談支援従事者（横浜市）初任者研修
- ・神奈川県障害者相談支援従事者（横浜市）現任研修
- ・神奈川県相談支援専門コース別研修（障害児支援）
- ・横浜市障害者後見的支援制度あんしんマネージャー・サポーター研修
- ・横浜市障害者自立支援協議会委員

10 訪問看護ステーションえーる

(1) 人員体制 看護師 2.5名（兼務課長1名、常勤1名、非常勤6名）

(2) 27年8月から28年3月までの実績

	新規 契約	契約 総数	訪問予定	キャン セル	実績	相談	複数 訪問	リハ 同行
8月	0	0	0	0	0	4	0	0
9月	2	2	0	0	0	4	0	0
10月	2	4	3人/19件	3	16	3	4	3
11月	1	5	4人/18件	5	13	2	1	1
12月	1	6	6人/27件	6	21	2	3	3
1月	1	7	7人/30件	2	28	4	4	3
2月	2	9	9人/40件	13	27	1	4	2
3月	3	12	12人/57件	10	47	1	9	4
総数	12	12	12人/191件	39	152	21	25	16

(3) 訪問地域

【訪問全域地域】保土ヶ谷区 2

【訪問一部地域】旭区 3・神奈川区 1・南区 1

【訪問区域外】港南区 1・港北区 1・泉区 1・西区 2

(4) 総括

8月開所、10月からの訪問開始となった。初年度は訪問地域を限定すると件数が伸びないため、横療主治医で訪問可能な範囲で受けた。慣れる、件数を増やすことはできたが、区域外が約42%になり移動に片道30分以上かかった。しかし、ポスターをセンター内に掲示することで、家族から直接声がかかることもあり認知されていないことも分かった。次年度は、近隣の希望者を獲得するため横療以外の営業活動の再検討が必要になる。半年でしか評価はできないが、利用者の季節による入院、短期入所などのキャンセルは全体の約20%にあたる。安定した収入を得るために、キャンセルを見越してスケジュールの見直し訪問調整は随時必要になる。

訪問看護師が日替わりのため引継ぎに時間を要したが、28年度は2名の専任配置のため

引継ぎなどスムーズとなり件数の増加が期待できる。件数増加の事務作業の効率に向け再検討をし、その上で事務員の配置を要望する。28年度は横療移転のため「えーる」以外の車両も自由に使うことができるため、利用実績を取り29年度車両購入につなげていく。新施設長期入所により訪問人数の減少が予測でき、地域、各機関と連携して目標30人を目指す。27年度は実習生の受け入れはできなかった。28年度も難しいことが予測できるため、29年度の受入れ体制を次年度整えることを次年度の課題とする。

1.1 総務部

- (1) 人員体制 事務員 5.8名（部長兼務1名・課長1名・常勤4名・非常勤1名）
 医療事務員3名（常勤3名）
 管理栄養士2名（常勤2名）※4月に1名増員

(2) 改修計画の設計

平成27年5月より設計定例会議を14回実施し12月末に基本設計を終了し実施設計を行った。またそのうえで改修に係わる建築確認申請を10月から実施し2月に各所管へ確認申請提出した。

(3) 建物設備等の維持管理

竣工より療育棟28年以上、医療棟は13年以上が経過し、施設維持管理に関しては29年度改修予定のため大規模な修繕等の必要な設備更新は実施しなかった。

(4) オーダリングシステムの運用

全稼働から3年が経過し、初期導入時の処方（薬品、検査）について、マスターデータ見直し、改善、修正を実施した。

Ⅲ 地域療育センターあおば運営事業

平成27年度は開設9年目を迎え、主に青葉区在住の発達に遅れのある、あるいは障害のあるお子さんとそのご家族に対する相談、診療、専門職による個別指導、早期から通園までの療育、地域への訪問支援、児童発達支援事業所、区の子育て支援事業の受託、地域ニーズ対応事業、保育所等訪問支援事業や障害児相談支援事業（利用計画書作成・モニタリング）を含め、事業内容の拡充を図りつつ順調に運営されている。各部署の実績は以下のとおりである。

人員体制 平成27年度 3月末時点 (人)

職種	所長	課管理	園長	事務員	栄養士	保育士	指導員 児童	看護師	P T	O T	S T	心理 臨床 士	S W	技検 師査	事務 療	計
常勤	1	1	1	2	2	16	15	3	2	5	4	6	8			66
非常勤				2		3	4	2		2	2	1	1		2	19

※育休者8名を含む

1 診療課

(1) 医師診察

新患者は、未就学児が312人、学齢児が94人の合計406人で、昨年度より56人増え、特に3歳児未満の早期受診と学齢児の受診が更に増えた。再診も未就学児が2,356人、学齢児が1,657人で合計4,013人となり、総合計が4,419人となった。なお、初診待機月数は2か月を下回っている。

診療件数

	科目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計	前年同期(増 減)	
			新規診療	発達精神科	未就学 学齢	8 0	10 0	17 0	21 0	16 0	13 0	14 0	17 0	7 0	12 0	17 0	16 0
	リハビリ科	未就学 学齢	2 0	0 0	7 0	3 1	0 0	1 0	3 0	1 2	2 0	0 0	3 0	5 0	27 3	18(+9) 1(+2)	
		児童精神科	未就学 学齢	0 8	1 7	3 6	2 10	4 13	3 6	2 10	5 4	1 10	3 4	3 8	3 4	30 90	15(+15) 63(+27)
	小児科	未就学 学齢	4 0	3 0	4 0	5 0	4 0	5 0	3 0	2 0	1 0	3 0	5 0	2 0	41 0	34(+7) 0(±0)	
		耳鼻科	未就学 学齢	6 0	3 0	4 0	3 0	5 0	5 0	6 0	4 0	3 0	3 0	5 0	0 0	47 0	56(-9) 0(±0)
	摂食外来	未就学 学齢	0 0	0 0	0(±0) 0(±0)												
		小計	未就学 学齢 計	20 8 28	17 7 24	35 6 41	34 11 45	29 13 42	27 6 33	28 10 38	29 6 35	14 10 24	21 4 25	33 8 41	26 4 30	313 93 406	284(+29) 66(+27) 350(+56)
	発達精神科	未就学 学齢	83 9	106 9	145 9	102 12	94 10	116 13	111 2	133 6	138 1	98 4	158 5	129 8	1,413 88	1367(+46) 87(+1)	
		リハビリ科	未就学 学齢	38 23	48 13	44 14	31 12	29 17	38 19	44 17	40 19	40 11	22 13	57 21	39 8	470 187	395(+75) 148(+39)
	児童精神科	未就学 学齢	3 87	9 118	10 108	4 126	11 103	13 108	16 127	9 113	19 118	15 106	18 99	17 124	144 1,337	140(+4) 941(+396)	
		小児科	未就学 学齢	13 1	8 5	19 2	12 2	16 1	12 1	19 0	14 0	20 0	16 0	17 7	17 19	182 38	178(+4) 6(+32)
	耳鼻科	未就学 学齢	5 1	5 0	20 0	14 0	14 0	12 0	7 0	8 0	6 0	13 0	6 0	14 0	124 1	137(-13) 5(-4)	
		摂食外来	未就学 学齢	3 2	0 0	3 0	0 0	3 3	0 0	5 0	4 0	4 1	0 0	5 0	0 0	23 6	19(+4) 0(+6)
	小計	未就学 学齢 計	145 123 268	176 145 321	241 133 374	163 152 315	167 134 301	191 141 332	202 146 348	204 138 342	227 131 358	164 123 287	260 132 392	216 159 375	2,356 1,657 4,013	2236(+120) 1187(+470) 3423(+590)	
		総計		296	345	415	360	343	365	386	377	382	312	433	405	4,419	3773(+646)

(2) 訓練等

理学療法、作業療法、言語聴覚療養は、いずれも20分1単位であるが、おおむね1人に3単位60分で訓練を実施した。心理指導は年間件数が増え、学齢児の心理療法件数が前年を更に上回った。通園施設利用にいたる前の低年齢児を中心に、外来グループとして集団療育活動を行った。肢体不自由や運動発達遅滞では、0歳から2歳程度の児童が対象で、1ループ、集団活動を通年で実施した。理学療法士・作業療法士が中心になり、相談課職員臨床心理士もグループにはいり、精神発達面と保護者の心理的サポートに協力した。年間で14名が利用した。

検査・訓練等

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	前年同期(増減)	
機能訓練	理学療法	未就学	112	115	145	120	122	129	126	127	129	116	127	142	1,510	1499(+11)
		学齢	31	32	46	43	43	45	39	40	46	43	44	46	498	426(+72)
	作業療法	未就学	182	197	237	238	192	257	244	226	246	233	239	281	2,772	2514(+258)
		学齢	22	21	24	29	39	24	26	29	30	41	31	45	361	285(+76)
	言語療法	未就学	136	179	227	196	173	195	222	208	234	162	182	176	2,290	2537(-247)
		学齢	20	16	27	30	19	20	27	23	22	32	26	37	299	157(+142)
聴力検査	未就学	20	19	23	20	24	27	43	33	36	18	25	22	310	310(±0)	
	学齢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)	
合計	未就学	450	510	632	574	511	608	635	594	645	529	573	621	6,882	6860(+22)	
	学齢	73	69	97	102	101	89	92	92	98	116	101	128	1,158	868(+290)	
	計	523	579	729	676	612	697	727	686	743	645	674	749	8,040	7728(+312)	
心理指導	心理療法	未就学	119	244	279	237	244	278	279	314	287	247	379	285	3,192	2919(+273)
		学齢	47	60	75	71	49	78	90	63	70	84	76	89	852	691(+161)
	(うち心理検査)	未就学	22	24	24	52	57	35	49	46	44	24	41	39	457	369(+88)
		学齢	6	12	14	8	14	11	12	9	9	11	11	10	127	107(+20)
臨床検査	脳波検査	未就学	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	4	3(+1)
		学齢	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	5	4(+1)
	脳波聴検	未就学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(-1)
		学齢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(±0)
	合計	未就学	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	4	4(±0)
学齢		0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	5	4(+1)	
計		0	0	1	3	1	0	1	1	0	0	1	1	9	8(+1)	
栄養相談	未就学	12	1	4	0	1	1	4	5	3	3	2	5	41	33(+8)	
	学齢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0(+1)	
補装具クリニック		2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	23	23(±0)	

2 通園課

(1) 通園課の概要

児童出席状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	前年同期
設定日数	知的	490	892	1,092	1,077	489	917	844	912	676	870	961	706	9,926	10,562
	肢体	140	314	382	375	181	306	294	329	240	306	357	247	3,471	2,657
	計	630	1,206	1,474	1,452	670	1,223	1,138	1,241	916	1,176	1,318	953	13,397	13,219
出席日数(実績)	知的	478	825	1,030	960	433	840	768	809	613	729	836	627	8,948	9,445
	肢体	128	267	347	332	159	267	262	281	213	246	299	225	3,026	2,283
	計	606	1,092	1,377	1,292	592	1,107	1,030	1,090	826	975	1,135	852	11,974	11,728
出席率	知的	97.6%	92.5%	94.3%	89.1%	88.5%	91.6%	91.0%	88.7%	90.7%	83.8%	87.0%	88.8%	90.1%	89.4%
	肢体	91.4%	85.0%	90.8%	88.5%	87.8%	87.3%	89.1%	85.4%	88.8%	80.4%	83.8%	91.1%	87.2%	85.9%
	全体	96.2%	90.5%	93.4%	89.0%	88.4%	90.5%	90.5%	87.8%	90.2%	82.9%	86.1%	89.4%	89.4%	88.7%
在籍児数/ クラス担任職員数	在籍児	113	114	114	114	113	114	114	113	112	112	112	112		103
	職員数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		20
	計	133	134	134	134	133	134	134	133	132	132	132	132		123

通園課は児童発達支援(定員60人)と医療型児童発達支援(定員30人)で構成され、職員は園長ほか支援職22人(保育士9人、児童指導員13人)であった。年間を通して、児童発達支援を利用した児童は80人、医療型児童発達支援では35人の利用児があった。原則2歳児は親子通園で、3・4・5歳児は単独通園と親子通園を併用して運営した。

青葉区の少子化傾向は明らかに現存するが、集団療育ニーズは予想以上に高いことが判明し、例年同様の10教室で行った。また、医療型児童発達支援のクラスでは、重症心身障害児から精神運動発達遅滞レベルまでの2歳児に週一回のクラスを編成した。なお、担当職員は医療型のクラス全体から2名を週2+週2+週1（午前）の3クラス担任に配置するなど新たな課内連携を強化した。

利用児のきょうだい児の一時預かりを引き続き、運営委員の保護者と協力して、実施した。

(2) 平成27年度に取り組んだ主な事業等

- ①療育機能単位で4グループに分けて、グループごとにチーフを設定し、各クラスの取組みなどを検討しクラス間の情報交換を行えるように設定した。
- ②担任が療育目標や集団プログラム、個別対応などの相談ができるように2名の主任をフリーにして、スーパーバイズを含め、通園としての一貫性をもって運営をした(なお、1名は年度途中から産休に入り、後半は1名となった)。
- ③人材育成計画を設定して、職員の資質向上のため、経験年数に沿って研修を組んだ。
- ④例年同様、子どもの療育と保護者支援を個別と集団で系統的に行った。保護者勉強会では例年ライフサイクルに関するニーズが高く、今年度は、児童発達支援のクラスの講師として、他自治体の療育センター経験がある本法人の障害者支援施設長を招へいした。医療型のクラスに対しては重症心身障害児者の支援経験が豊富な他法人の理事長を招へいした。
- ⑤防災対策として、月1回の避難訓練を登園児・保護者全員参加で行った。また、黒須田小学校との合同の避難訓練も行った。
- ⑥黒須田小学校との相互理解を深めるため、教師を対象にセンターの見学会と秋休みに通園職員の学校見学会を開催した。また、初めての試みとしてセンター全職種の職員と教師とが運動プログラムを通しての交流体験の場をもった。

3 相談課

平成27年度の初診相談件数は、昨年度の350件をさらに上回り406件であり、開設後初めて400件を越えた。昨年度同様に低年齢児の保護者による申し込みがインターネット等の情報ツールより増えたことと、学齢児の相談が増えたことによるものと思われる。

(1) 初回面接相談件数と初診件数

初回面接相談設定数	400枠
初回面接相談実施件数	332件
内 初診導入件数	293件
初診件数	406件
内 発達精神・児精等	359件
耳鼻科	47件

27年度の初回面談は26年度より若干の増加を示した。面談枠に入らずに、相談レベルでの電話等の相談件数は、それ以外に100件を越えた。

なお、初診導入件数に比して発達精神・児精等の件数が上回っている理由は、当初から電話によるインターネット相談を経て初診に入っている利用者があるからである。

(2) 巡回相談事業

	設置数	実訪問園数	延訪問園数	対象児数
区内幼稚園	21園	17園	31園	297人
区内保育園(保育室・無認可含む)	81園	35園	68園	474人

保育園数81園内、認可保育園が56園、無認可園・横浜保育室が25園となっている。
対象児は、概ね当センター未利用児である。(利用児に関しては保育所等訪問支援で対応)

(3) 障害児相談支援事業 (利用計画書作成件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
5件	10件	6件	5件	5件	4件
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4件	5件	4件	10件	2件	30件
				合計	90件

障害児相談支援は、27年度児童発達支援センター及び児童発達支援の利用件数(約150件)は入っていない。前年度102件から12件減となっているが、3月の計画相談件数は前年度20件から30件と10件増となっている。これは、年度当初から児童発達支援利用開始のニーズとなっている。

(4) 保育所等訪問支援事業

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0件	3件	11件	10件	4件	7件
10月	11月	12月	1月	2月	3月
14件	7件	2件	6件	10件	5件
				合計	79件

保育所等訪問支援は、当センター利用実績のある「個」のお子さんへの支援を行うもので、前年度103件から24件の減となっているが、より訪問に対するニーズを精査して実施している。

(5) 学校支援事業

実支援学校数	22校
延訪問件数	82件
内 コンサル	77件
研 修	5件

青葉区内公立小学校31校内22校について学校支援を行った(過去5カ年では31校中30校の実績がある)。

(6) 地域ニーズ対応事業

① 保護者のためのこころのケア相談

面接	延 39 件
電話相談	延 16 件
こころのケア カンファランス実施回数	15 回
カンファ検討ケース数	延 28

センター利用児の保護者の中で、子どもの発達や成長に関して不安や悩みを抱える方や日頃のストレスによってメンタルヘルスが気になる方を対象に、精神保健福祉士が月 2 回定期的に来所し保護者支援を行った。

② あおばであそぼ（ひろば事業） <参加人数>

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
2 人	7 人	9 人	7 人	8 人	8 人
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
7 人	5 人	4 人	5 人	4 人	7 人
合計					73 人

参加人数は、子どもの人数（73 人内きょうだい児は 9 人）。当センター初診待ちが全体の 45%、サービス提供待ちの利用児を含めると全体の 66% を占めている。スタッフは、ひろば独自で依頼した保育士 2 名とソーシャルワーカー・保育士・心理士・言語聴覚士等）で行った。

4 こども支援室こだち

平成 27 年度は前年度同様 48 名定員で療育を開始し、安定したサービス提供を行った。一人ひとりの療育ニーズに応えるため、年度途中で 2 名に対して個別療育サービスを午後の時間帯に提供した。また、保護者の就労要件により定期的な集団療育の利用が難しい利用児 1 名に対して、個別療育サービスを実施した。

(1) 児童発達支援事業所

① 集団療育

クラス名	登園日数/週	曜日	4 歳	5 歳	合計
けやき①クラス	1 日	月		6 人	6 人
けやき②クラス	1 日	火		6 人	6 人
かえで①クラス	1 日	水		6 人	6 人
かえで②クラス	1 日	木		6 人	6 人
かえで③クラス	1 日	火	3 人	3 人	6 人
かえで④クラス	1 日	水		6 人	6 人
かえで⑤クラス	1 日	木	2 人	4 人	6 人
かえで⑥クラス	1 日	金	6 人		6 人
合計			11 人	37 人	48 人

※なお、48 名利用児に対して 6 月～12 月にかけて幼稚園・保育園に訪問を実施した。

②個別療育

クラス名	登園日数/月	曜日	4歳	5歳	合計
どんぐりクラス	2日	月～金		3人	3人

※-① 1名は、集団から個別に移行し9月～3月まで実施。

※-② 1名は、集団と併行して2月・3月に実施。

※-③ 1名は、外来から選定して12月～3月まで実施。

5 管理課

(1) 運営状況

センターあおばの所要経費は、横浜市（こども青少年局）からの補助金と通園施設収入、診療報酬および相談支援事業収入により運営されている。

年2回の運営協議会にて27年度の事業報告と28年度の事業計画を報告し、センターの運営と青葉区内における障害児の療育の推進について協議を行った。

(2) 給食

通園利用児及び通園職員等に対して、昼食提供を行った。センター管理栄養士は、献立作成、栄養相談、調理受託者の管理の他、食物アレルギー、ケトン食にも対応し、給食の適切な運営を行った。平成27年度の給食提供数は以下のとおりである。

平成27年度給食提供数集計

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
日数		10	18	22										50	
肢 体	経口摂取準備食	7	0	0	0	0	0	0	1	3	4	3	4	22	
	初期食	19	51	64	59	28	52	50	47	37	45	53	37	542	
	中期食	10	93	112	97	46	87	71	72	56	65	81	57	847	
	後期食	21	33	53	49	28	37	41	50	38	47	55	39	491	
	ケトン食	6	12	15	15	8	10	9	13	10	11	15	10	134	
	アレルギー食	2	4	9	6	5	6	4	6	3	3	8	5	61	
	幼児食	5	32	47	41	21	34	52	68	57	58	70	55	540	
	指導食（通園課）	43	119	153	143	70	116	118	140	107	127	148	105	1,389	
	指導食（上記以外）	0	2	4	1	0	3	0	3	0	2	2	0	17	
	検食	7	18	22	21	10	18	17	19	14	17	20	14	197	
	その他	0	0	5	3	1	8	1	0	2	1	6	1	28	
	小計	園児	77	243	322	288	146	244	244	276	218	250	305	221	2,834
		指導食他	43	121	162	147	71	127	119	143	109	130	156	106	1,434
	知 的	経口摂取準備食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初期食		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中期食		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
後期食		3	35	44	37	19	32	32	29	14	15	18	14	292	
ケトン食		0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
アレルギー食		2	27	34	31	15	26	16	16	12	17	15	12	223	
幼児食		202	762	952	845	400	774	688	732	540	669	715	536	7,815	
指導食（通園課）		83	322	386	355	168	319	299	292	220	274	303	221	3,242	
指導食（上記以外）		36	40	28	56	19	52	36	164	28	48	73	50	630	
検食		7	18	22	21	10	20	17	19	14	17	20	14	199	
その他		29	81	106	204	57	100	72	130	65	74	94	64	1,076	
保存食		14	36	44	42	20	38	34	38	28	34	40	28	396	
小計		園児	228	878	1,096	976	464	892	787	834	608	752	808	604	8,927
		指導食他	148	443	520	615	244	471	407	586	313	396	470	335	4,948
合 計	園児	305	1,121	1,418	1,264	610	1,136	1,031	1,110	826	1,002	1,113	825	11,761	
	指導食他	191	564	682	762	315	598	526	729	422	526	626	441	6,382	
	総合計	496	1,685	2,100	2,026	925	1,734	1,557	1,839	1,248	1,528	1,739	1,266	18,143	

(3) 通園バス

今年度は駐車場の混雑緩和のため、マイクロバスから中型バスに変更し、計3台のバスを民間会社に委託し、1ルート1時間程度の運行時間を目安に3ルートで運行を行った。

IV たっちほどがや運営事業

開所から6年目となった平成27年度は「入所者のQOL」、「地域移行支援」、「医療ケア」等、施設が直面する課題解決のため、①組織体制簡素化（副所長廃止）と職員体制強化（入所日中活動担当の複数化と通所支援課への統合）、②相談支援事業への対応、③看取りケースに対する支援体制の充実、④ユニット再編成、⑤新しい通所施設の準備等に取り組んだ。

①入所利用者（短期利用者含む）の日中活動数は、組織体制を簡素化することとあわせて日中活動担当職員を前年度の2名から2.5名にしたことにより、対応人数が一日平均7人から15人に倍増した。さらに近隣地域での買物やレストランでの食事などの外出回数では平成25年度と比べると年118回から317回へと大幅に増やすことができた。

②相談支援事業については国が「サービス等利用計画」を義務化したことに対応するため、計画相談担当者を2名兼務配置したことにより入所者へのケースワーク（地域移行支援）が始まり、その結果入所者の中から3名それぞれが地域の通所施設へ週1回通所することになった。

③高齢化した2名の利用者の家族、主治医、施設が話し合い、それぞれの穏やかな終末ケアを三者で連携協力する取り組みが始まり、それにあわせて職員研修や会議を充実させた。その結果、三者が協力しあい2名とも小康安定状態が維持できた。

④自立タイプ、医療ケアタイプ、動きのあるタイプと利用者のタイプにそってユニット再編成を行った。その結果約半数の入居者が部屋を変えた。今後は、共通するタイプに対することできめ細かいニーズ対応が可能になった。

⑤特別支援学校の卒業生のなかで重複障害のある生徒の生活介護通所が不足していて、このままでは平成29年度には行き場のない生徒が出るという予測がある。たっちの生活介護通所は平成28年度でほぼ満杯となるため、新たな通所施設用地を関係者の協力を得て探した。その結果、泉区上飯田に土地（賃貸）が見つかり、横浜市からの設備助成を得ることができた。開所は平成29年4月の予定。

その他、「サービス等利用計画の義務化」にあわせて相談業務の平準化をすすめるために横浜療育医療センター医療福祉相談室と相談担当者の毎月の定例会議を開始したほか、横浜市社協を事務局として市内4施設（旧身障療護施設）の施設長会をスタートさせ、4施設の課題共有と解決にむけた話し合いを進めたことなど、連携活動で新しい取り組みを始めた。

人員体制

(人)

職種	所長	管理課長 (兼)	入所課長	通所課長	事務員	栄養士	生活支援員	運転員	看護師	相談員	当直員	洗濯員	計
常勤	1	(1)	1	1	3	1	49	1	4	2	1		64
非常勤							16	3	2		1	2	24

1 施設入所支援事業（定員暫定42名）

利用状況 ※障害程度区分 平均：5.8

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	1289	1328	1288	1328	1320	1265	1297	1246	1300	1266	1195	1299	15421
26年度	1282	1331	1243	1248	1308	1269	1306	1284	1298	1270	1172	1322	15333
差異	7	-3	45	80	12	-4	-9	-38	2	-4	23	-23	88

- ・のべ利用者数は昨年度よりも88人多く、利用率は98.3%であった。（昨年度97.4%）

2 短期入所事業（定員暫定7名）

利用状況（実績） ※登録者数252人（昨年度230人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	175	172	172	190	185	181	187	161	147	155	149	184	2058
26年度	178	183	169	182	167	179	185	167	175	181	160	185	2111
差異	-3	-11	3	8	18	2	2	-6	-28	-26	-11	-1	-53

- ・新規申し込みは、できるだけ受け入れるように努め登録者は22名増加した。
- ・11月にユニット編成を行い利用者の生活安定を図るため、12月～2月は受入れを抑えた。その結果昨年度より53名減少した。3月から復調した。
- ・1年間の稼働率は80.3%（昨年度82.4%）であった。

3 生活介護事業・通所部門（定員20名）

利用状況（実績） ※障害程度区分平均5.9 事業日数261日（261）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	383	349	413	418	365	388	391	372	379	336	356	421	4571
26年度	292	313	345	346	314	317	334	294	351	307	303	353	3869
差異	91	36	68	72	51	71	57	78	28	29	53	68	702

- ・新規利用の受け入れをすすめた結果、昨年度よりも702人（前年度463人）の利用者増となった。
- ・出席率は82.9%であった。

4 日中一時支援事業（定員3名）

- ・通所者を主な対象に月平均6名程度の利用で推移した。
- ・利用時間が短いこと（16:30～17:00）、送迎が自主送迎であることが課題となった。

5 その他

施設全体の取り組みとして、委員会（リスクマネジメント・感染、サービス向上・虐待

防止、研修・教育、給食・栄養、行事・広報、通所活動検討、ボランティア) を設け事業推進に向けた取り組みを行った。また、施設活動の情報提供をさかんにするため、ホームページ委員会を立ち上げ毎月1回、「最近のたっち」のコーナーで写真更新するように努め、家族、関係者への情報発信を行った。

V ヘルパーステーションまいはーと運営事業

1 人員体制

平成27年度は、常勤職員4名の内サービス提供責任者3名と常勤嘱託職員2名及び登録ヘルパー16名（前年登録数より8名減）の計22名での運営となった。登録ヘルパーの減の理由は、登録だけで実質稼働がないヘルパーの登録をやめてもらったことによる減であるが、その分ヘルパー一人あたりの訪問件数が増えている。登録ヘルパーについては広告等で募集して何名かの応募はあったものの採用には至らなかった。そのため法人内の異動により常勤職員で対応してきた。

2 利用状況

利用状況は新規登録利用者が4名、ほっとはーと（自費サービス）契約者が7名で、下表の稼働状況にあるとおり、訪問者数は月平均66人で前年度と比較して8%増、訪問件数も月平均の前年度比53件の増加で、収入の基礎となる訪問時間が前年度比7.2%増となった。しかし、利用変更依頼が1330件、キャンセル386件と年間訪問件数の22.0%も占めており、かなりの時間を訪問調整に費やしている状況は前年度同様である。冒頭で述べているが職員の充足ができない中で前年同様に訪問実績を維持してきたが、まいはーとの利用ニーズはまだまだあることから、職員体制の拡充をどのように図っていくか検討していくこととしたい。

3 職員研修

職員研修については、平成27年度も毎月のヘルパーミーティング後に職員全員を対象に、主に歯科による「障害者の口腔ケア」の実技研修、医療福祉相談室三田室長による「相談室の役割・まいはーとの繋がり」についての研修を行ってきた。また、外部からは、視覚ハンディ当事者の中村浩章氏を講師として招き「障がい（視覚）当事者の視点からの日常生活・介助者に求める支援について」の講義を3月に開催した。視覚ハンディ当事者からの日常生活上における不安や困難、福祉の現状について求められることについて学ぶ機会となった。

稼働状況

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
訪問者数	26	62	61	62	63	60	61	61	63	63	55	59	60	730	61
	27	62	62	63	67	63	67	67	67	68	66	67	68	787	66
訪問件数	26	616	605	617	650	587	624	616	578	550	523	550	644	7160	597
	27	611	607	684	700	658	620	678	620	641	602	652	729	7802	650
訪問時間	26	808	813	836	848	786	802	809	761	729	645	663	778	9278	773
	27	807	799	857	875	822	772	880	807	821	791	811	900	9942	829

VI 保育室ひかり運営事業

(1) 人員体制

保育士 9名 (園長1名・非常勤8名)

保育福祉員 2名 (非常勤2名)

調理員 2名 (非常勤2名)

(2) 利用状況

「保育室ひかり」は今年度「家庭的保育事業・小規模保育事業B型」に認可移行した。定員は20人から19人に減ったものの、横浜市の利用調整が有効に働いた結果、月平均で17人と安定した利用者数で推移した。また、処遇改善手当も加算され職員の賃金改善につなげることができ、今後も保育士の安定した確保を図っていききたい。

今後は認可移行の条件である連携施設（卒園後の受け皿となる施設）との関係づくりや他施設との交流などの地域連携を深め、一層の保育の質の向上を図りたい。

利用児童数 (定員19人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
0歳(人)	0	1	1	2	3	3	3	3	3	2	2	2	25 (2)
1歳(人)	6	7	7	6	6	6	7	7	7	7	7	7	80 (6.6)
2歳(人)	6	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	8	101 (8.4)
計	12	16	16	16	18	18	19	19	19	18	18	17	206 (17.1)
一時	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17

(年間利用児童数) 27年度の定員は19人 (26年度以前は定員20人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
27年度	12	16	16	16	18	18	19	19	19	18	18	17	206 (17.1)
26年度	9	10	11	11	13	14	15	15	15	15	15	15	158 (13.1)
25年度	13	13	13	15	16	18	18	18	18	18	17	17	194 (16.2)

Ⅶ 病児保育室あさひ運営事業

1 人員体制

保育士 4名(常勤1名・非常勤3名)
 看護師 2名(非常勤2名)

2 利用状況

平成27年度の延利用者数は728人である。1日定員は6名だが、平成27年度は1日平均利用人数は2.9人であった。

今後、利用者からの声を受け、子どもにとって使いやすい施設環境へ改善を行うとともに、給食の提供や延長保育サービスを検討し、利用者数の増加にもつなげていきたい。

また、近隣保育園への訪問活動を通して案内パンフレットを置いていただくなどの広報活動を強化していく。

<登録・利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開設日数(日)	21	18	22	22	21	19	21	19	19	19	20	22	243
登録者数(人)	46	21	18	15	7	18	14	6	9	9	17	39	219
延利用者数 A	54	38	87	75	42	43	43	44	61	55	114	72	728
加算利用者数 (A-20人)	34	18	67	55	22	23	23	24	41	35	94	52	488
1日平均 利用者数(人)	2.6	2.1	4.0	3.4	2.0	2.3	2.1	2.3	3.2	2.9	5.7	3.3	2.9

<登録者数、延利用者数の推移>

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
登録者数(人)	290	221	217	187	177	190	219
延利用者数(人)	318	636	674	765	680	806	728